

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【学校像】伝統ある普通科高校として、以下の学校をめざす。

- ・希望に応じた進路実現をサポートする学校
- ・次代を担う志高くたくましい人材を育てる学校
- ・地域に信頼され誇りとされる学校

【育てる力】授業・学校行事・部活動・地域連携等を通じて、以下の力を育む。

- ・確かな学力とキャリア意識
- ・主体的に考え行動する力
- ・知徳体備わった豊かな人間性

2 中期的目標

1 学力向上と進路実現

(1) 新学習指導要領と本校の実情や将来像をふまえ、基礎的・基本的な学力（「確かな学力」）の定着と発展的な内容への取り組みをめざす。

ア 進路目標に応じたコース（文理系・文系・総合）の指導を強化し、進路指導等のホームルーム活動やガイダンス活動を充実させる。
イ 学習ニーズの多様化をふまえた選択科目の充実をはかり、生徒の能力・適性・興味・関心、進路希望に応じて学習できる教育活動の展開に努める。

ウ 「学習基礎」（朝のモジュール型学習：通称朝学）で、モジュメディアステーション（一斉配信機能付き電子黒板）を活用して「確かな学力」を身につけさせる。

エ 平成27年度学校経営推進費事業において支援が決定された「英語多読・多聴ステーション」を核にし、生徒の英語力の向上等を図る。

(2) 「充実した授業」をめざし、授業力向上に取り組む。

ア 学習支援室を主体として、教員の授業見学や研究授業の活性化など、教科横断的な授業力向上への取り組みを充実させる。

イ 「学校教育自己診断」や「生徒の授業アンケート」等を利用して授業改善に努め、生徒の授業充実度を向上させる。

ウ 視聴覚教材メニューの充実を図る。
* 「授業アンケート」の生徒の充実度（質問項目8・9「興味・関心」「知識・技能」）について、1回目より2回目を0.02ポイントアップさせる。

(3) 生徒の進路希望を実現させる。

ア 授業の充実の他、講習・ガイダンス等の充実をはかるとともに、入試結果の実績維持・伸長をめざす。

* 学力生活実態調査（Bゾーン以上の成績を有する生徒が、学年の過半数）及び、英語学力調査（スコア430点）

* 中堅・難関大学現役合格者数及びセンター試験出願者数がH30年度230名及び90名以上、H31年度240名及び100名以上、2020年度220名及び90名以上（3学年在籍生徒数が前年度より40人減と想定）。

2 志学・総合学習の推進

(1) 志を持ったよき社会人として、自立と創造する力を養うための、志学・総合学習実施計画を推進する。

ア 企画立案する志学総合推進チーム内の企画グループと実践グループが、志学・総合学習を推進していく。

イ 志学総合推進チームは、分掌、委員会、教科、教員個人の実践やスキルの中から多くの効果的な情報を得て、より充実した取り組みになるよう企画立案・実践していく。

ウ 志学の内容の充実・改善に努める。

エ 人権（基礎）教育、ボランティア活動、キャリア教育、ライフプラン作成等、各分野での実践を検証し、志学との相乗効果を図る。

(2) 語学研修等国際交流活動の充実を図る。

ア 国際交流委員会の活性化と英語力の習得に特化した語学研修等の充実を図る。

イ 大阪観光局等と連携し、海外の高校生との交流を通じて国際理解を深める。

(3) 読書活動の推進を図る。

ア 図書館を中心に読書活動の推進を図る。

3 府民に信頼される魅力ある学校づくり

(1) 生徒支援体制の確立

ア 支援相談委員会が、「高校生活支援カード」を活用して、課題を抱える生徒や自己に責任がない理由で学校生活を送ることが困難な生徒、障がいがある生徒等を必要とする生徒等に対して、実態の把握と個別の支援策を考えるとともに、「個別の支援計画」を作成し支援していく。

イ 支援の必要な生徒に対する支援方法等の研修を行い、共通理解の促進と実際の支援の充実を図る。

ウ 自治会活動に対する指導の充実を図り、文化祭、体育大会等の諸行事をさらに活性化させ、充実感を育むとともに、地域や保護者との交流を深め、互いの信頼関係を築く。

エ 生徒のマナー意識、規範意識等の向上をめざし、あいさつのできる生徒、遅刻数のさらなる減少、自転車事故等の防止をめざす。そのため、生徒自治会と連携して、あいさつ運動・安全指導・マナー向上運動等を実施する。

オ 人権教育を中心に、命の大切さを学び、自他を大切にす基礎的な人権意識の醸成を図る。

カ 夢を育み目標をかなえるライフプランを作成させることで、将来に向けての意欲を引き出し、生徒それぞれの潜在能力を開花させていく。
* 遅刻者数の前年度比からの減少をめざす。

(2) 学校運営体制の強化

ア 学校運営の機動性・円滑性を高めるため、組織力の強化を図る。

イ 新任・若手教員、ミドルリーダーの育成を図る。

ウ 働き方改革のとりくみとして業務の効率化を促進し、意識の改善を図る。

(3) 開かれた学校づくり

ア より開かれた学校をめざし、積極的な情報提供や広報活動を展開していく。

イ 創立100周年を見据え、生徒・保護者・教員・同窓会等オール阿倍野態勢を推進していく。また、さらなる進化発展（「めざす学校像・生徒像」の実現と、地域・関係者からの高い評価）をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>「学校の楽しさ」について肯定値は保護者83%、生徒も80%を維持している。また「入学して（させて）よかった」という生徒は78%に対し保護者は91%。生徒が前年度より5ポイント低下した。</p> <p>【学習指導】教員の肯定値「指導方法の改善・工夫」が97%と劇的に改善。また今回から新設した「生徒の発言を引き出し、表現力養成」については92%と顕著な成果が見られる。「ICTの活用」は62%と昨年に比べて12ポイント上昇した。これらの高い数値の背景として、今年度受託したパッケージ研修Ⅰの狙いであるワーキンググループが主導する授業改革の取組みが好影響を与えているものと評価できる。また、生徒の肯定値「ICTの活用」81%（4ポイント上昇）、「意見発表機会」は73%と横這いだが、1年生ではそれぞれ89%、84%。「朝学習に意欲」を示す生徒は全体で83%（4ポイント上昇）に対し、1年生は90%と突出。入学年次生としての緊張感に加え、学習意欲の維持向上に向けて学年団において組織的に指導している成果と言えよう。「教え方に工夫」を感じ取る生徒も75%とここ数年改善傾向を維持しており、教員と生徒が共によりよい授業をめざして少しずつ努力した結果が表れつつある。ただ、教員の「授業の改善・工夫」に関する肯定値が約97%に対して、生徒の「分かる・質問しやすい」肯定値が75%前後で留まっており、両者の意識の乖離は継続課題である。</p> <p>【生徒指導】「基本的生活習慣の確立」についての肯定値は教員85%、生徒81%、「生徒指導方針に理解」について保護者の肯定値は85%、「保護者との連携」について教職員の肯定値92%と一様に高く、遅刻指導をはじめ、服装やマナー指導については確立されており、学習環境を整え、社会性を身に付けるという共通理解も得られている。また、「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導」を重視する教員は74%（9ポイント上昇）と更に改善、過去最高数値に達している。「教育相談体制」が整備されてきたと捉える教員は85%（4ポイント上昇）、生徒の肯定値も「気軽に相談できる」64%（12ポイント上昇）と顕著に改善しつつある。その要因として、昨年度より取り組んできた支援相談体制の充実に加え、今年度より導入した支援相談委員会の定例化、専門資格を有する教員による同委員会の運営、対話重視の生徒指導方針などが挙げられる。</p> <p>進路指導については「進路実現に向けて適切な情報提供がある」の生徒の肯定値が80%（6ポイント下降）、保護者が82%（2ポイント下降）と微減したが一定の評価を維持している。また「きめ細かい指導」については、教員の肯定値が92%（6ポイント上昇）と高水準を維持し、生徒の肯定値も70%と引き続き改善傾向にある。双方の意識の差を埋めるべく、さらなる個に応じた進路指導の充実が求められる。</p> <p>【学校運営等】「適材適所の校内人事や勤労意欲」が59%（8ポイント上昇）「分掌・学年間の連携」が69%（13ポイント）と大きく改善したのに対し、「各種会議が意思疎通・意見交換の場として有効に機能」が36%と、教員の肯定値が13ポイント下降。組織改編のプラス面として各組織リーダーの意識が向上、人員配置もその意を一定汲むことができたものの各組織内においては業務改善に向けた十分な協議がなされていない側面があると考えられる。各組織内においても報告・連絡・相談を心がけ、各会議での情報の密な共有に加えて、ボトムアップ機能の向上を図る必要がある。また、「経験の少ない教職員の育成」について肯定値が69%（22ポイント上昇）とこの5年で最高数値。校内の授業改善ワーキンググループとして経験の少ない教員がチームで取り組むことにより、副次的に育成にも資する体制が構築できている。「学校のホームページ閲覧」については保護者の肯定値41%（6ポイント改善）と近年最高数値に達したが、依然として低水準。保護者の48%が利活用するメールマガジンは増発しているものの、システム上の限界のため遅配が課題となっている。次年度は危機管理体制整備の一環として両者の機能や利便性の向上を図る。</p>	<p>第1回（7/11） 対話を重視した指導方針は課題発見や解決にもつながるので評価できる。創立100周年に向けて生徒や地域との繋がりをさらに広げ、深めて、集団での学びの場を創出してほしい。</p> <p>第2回（11/8） 教員が生徒の目線に立って共感的に接しており好印象。抽象的な概念を上手く工夫して具体的に分かりやすく説明できるのが良い授業者。自発的に発言発信できる生徒を育てるためセブ島研修も含め授業改善に尽力してほしい。</p> <p>第3回（2/14） 生徒の主体性を重視し、対話する力を育てるための取り組みを英語授業に限定せず、幅広く多様な教育活動で導入すべき。ホームページの刷新等も早く進めてほしい。</p>

府立阿倍野高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
(1) 学力向上と進路実現	(1) 学力向上・進路実現に向けた取り組みの強化 ア 授業改善を進め、学力向上に向けた取り組みの強化 イ 新教育課程の取り組みの充実 ウ 進路指導方針の確立と生徒支援・進路実現に向けての取り組みの充実 エ 生徒へのガイダンス機能の充実	ア a 学習支援室と各教科が連携して、授業アンケート(年2回実施)、学校教育自己診断、相互授業見学等に取り組み、結果を総合的に分析し、課題を共有し、更なる授業改善を進める。 b ペットトーク、コーチング、ファシリテーション等について校内研修を通じて理解を深め、生徒の主体的な深い学びを引き出すスキルの向上を図る。 イ a 「学習基礎」(朝学)については、モジュメディアステーションの活用による「みる」「きく」等の感覚機能を活かした取組みを計画し、実施する。 b 「学習・進学PJ会議」を中心に、学習面、進路面での諸課題に迅速かつきめ細かく対応する。 c 英語科授業での多読・多聴活動をはじめ、「土曜学習会」、意欲や学力の高い生徒への講習や数学等苦手意識のある生徒への補習など学習支援への取組みを充実する。 d 英語4技能のうち「話す」能力の向上をめざした特別な取組みを計画し、実施する。 e 「主体的で対話的な深い学び」の実現に向けて、各教科の授業において定期的に論理的なディスカッション活動を導入する。 ウ a 新教育課程における進路目標に基づいて、進路指導の方針を確立する。その中で「進学講習」「学習キャンペーン」等を推進し、質的・量的な充実を図る。 b 進路指導部と連携し阿倍高塾の授業内容の充実と映像教材の指導充実を図る。 c 高校入学時の学力の維持・向上に努めることを目標として、学力生活実態調査、英語学力調査等を用い、進路実現を図る。 エ 学習ガイダンス、進路ガイダンス機能を充実させる。(選択科目説明会・進路別説明会・学問別説明会等の充実) a 年度当初に保護者の進路情報ニーズをきめ細かく把握する。 b 3年次への進級に先立ち、2年次3学期に、センター試験受験の意義や効果的な受験対策について情報提供を行う。	ア a 授業アンケート、学校教育自己診断による経年比較し生徒満足度「わかりやすい授業・教え方に工夫」70%以上、教員のICT活用率60%以上をめざす。 b 経験の少ない教員をはじめ、各教科や校内で授業研究等年1回以上の実施。 イ a 一斉映像配信英語教材の研究と作成。生徒アンケートによる取り組み意識の肯定率70%以上をめざす。 b 指導教諭や首席教諭と連携し、学習指導要領改訂を見据えた授業改善に係る会議を授業期間中、月1回以上開催。 c 「土曜学習会」参加者数平均150名 d 全生徒対象のスピーキングテストを年1回以上実施。 ・海外英会話研修への参加15名以上。 ・校内英会話研修への参加15名以上。 e 科目の特性に応じて、単元毎に最低1回以上、意見交換や意見発表等を実施。 ・学校教育自己診断で「論理的に考えや想いを他者に説明できるようになってきた」の肯定率5割以上。 ウ a 平日の家庭学習時間60分以上の生徒の総数が学年総数の過半数を占めること。 b 阿倍高塾の生徒満足度60%の維持。 c 学力生活実態調査等の成績でBゾーン以上の成績を有する生徒の総数が学年総数の過半数を占めること。 ・英語学力調査トータルスコア430。 ・中堅・難関大学現役合格者数の230名達成 エ 各説明会等での生徒および保護者アンケートの実施による検証を経て、充実・改善を進める。 ・アンケート「進路指導・情報提供に関する肯定値」の維持向上。 ・センター試験出願者数90名以上	ア a 「わかりやすい授業・教え方に工夫」75% (○) 「ICT活用」62%(○) b 相互授業見学は一人当たり2回以上の見学を実施(○)校内研究授業3回及び授業改善全体研修2回実施(○) イ a 生徒の取組意識83%(◎) b パッケージ研修I関連会議や校内研究授業、WG打合せ、カリマネリーダーとの協議も含め月1回以上開催(○) c 参加者平均161名(暫定値)。昨年度値を6名凌駕し目標超(◎)各講習については前年度より講習講座数(13→19)・申込生徒数(258→343)共に増加。(○) d スピーキングテスト年1回実施(○)海外及び校内英会話研修ともに14名参加(いずれも直前に1名キャンセル)(○) e 生徒の発言を引き出し表現力を高める授業づくりに9割以上の教員が取り組んでいる(○) ウ a 3年生4月時においては大きく上回るものの、1,2年時では達成できていない。(△) b 1年次の満足度53%でやや低下(△) c 学力生活実態調査においては、英・国は全ての学年で目標を達成したが、3年の数学が48.2%と未達成であった(△)。英語学力調査411(3年)と目標を達成できず(△)。中堅・難関大学現役合格者数については240名(○) エ 生徒アンケート「進路に関する情報提供」は6p低下(△)保護者アンケートでも2p低下(△)センター試験出願者数は100名超(◎)
	(2) 志学・総合学習の推進 ア 総合的に行える組織の充実 イ 新教育課程を踏まえた取り組みの充実	ア a 志学総合委員会で、学年と連携して新教育課程の総合学習および志学の指導内容を充実する。 b 総合学習・キャリア教育の取り組みの推進および志学テキストの活用を充実を進める。 イ a これまでの取組の検証を踏まえて、引き続き、芸術鑑賞、人権講演会、美化活動、挨拶キャンペーン、志学の川柳募集などを企画し、その充実を図る。 b 「花いっぱい学校・日本一きれいな学校」を目標に、校内や周辺地域の美化活動をより推進する。	ア a 系統立てたキャリア学習を計画する。 ・教員アンケート肯定値「キャリア教育」58%の維持。 b 月1回以上、生徒間の議論を組み込んだ志学等を実施する。 イ a アンケート「豊かな心や生き方について考える機会がある」1年肯定値70%の維持 b 学校運営協議会委員やPTA実行委員による点検評価を受け、目標肯定値7割以上。	ア a キャリア教育についての教員アンケートは67%と11p上昇(◎) b LHRや授業も含め月1回以上議論(○) イ a 取組は全て推進(○)アンケートの1年肯定値は72%と維持(○) b 授業環境の美化については生徒の肯定値65%(△)
	(3) 読書活動の推進	ア 国際交流委員会の活性化を図り、語学研修等の充実を具体化する。	ア 教員及び生徒の委員会の定期的開催 年8回(29年度6回) ・短期語学研修の授業内容の改善(英語使用率の割合8割(29年度6割))	ア 生徒の実行委員会8回開催に加え外部組織での外国高校生との交流に係る会合に参加し企画運営に関わるなど、組織の活性化が進んだ(◎) 短期語学研修は海外と校内で各1回、双方オールイングリッシュ方式での実施につき10割達成(◎)。
(3) 府民に信頼される魅力ある学校づくり	(1) 安全で安心な学校づくりと意欲ある学校生活 ア 支援相談委員会の充実 イ 生徒支援室関連業務の充実 ウ 美化関係業務の充実 エ 地域交流の充実	ア a 支援相談委員会を充実させ、必要に応じてケース会議等を開催し、生徒支援の充実を図り、集団生活の充足感をめざす。SCのカウンセリングマインドに関する研修を1回以上計画し、全体で共有しスキルを向上する。「高校生活支援カード」を面談などで活用。 イ a 自治会を中心とした生徒会活動の支援体制の強化と、生徒部全体で各行事のより一層の進化発展をめざす。 b 何度も遅刻を繰り返す生徒に対する指導を徹底する。 c 安全な通学、特に自転車通学の事故防止(標語&啓発、推進月間・推進週間の設置)と自治会としての啓発活動の推進。 d 風紀委員の役割の充実(挨拶・自転車駐輪指導等) e 生徒の健康管理と健康の意識を高める。 f 生徒自治会とともに学校食堂の魅力の向上を図る。 ウ a 年3回の安全点検を実施し、危険を排除する。 b 清掃が行き届く分担場所の工夫と清掃の確実な実施。 c 生徒自治会を主体にクリーンキャンペーンを実施し、校内美化活動を通して愛校心と仲間意識を育む。 エ 家庭科授業選択生徒や部活動参加生徒、有志生徒中心に地域の活性化や福祉活動に取り組むことにより他者理解を深め、併せて自己有用感を育む。	ア 自己診断の「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定値70%への向上をめざす。 イ a 各行事で生徒アンケートを実施 生徒満足度80%の維持(体育大会、文化祭)。 b 遅刻者数→1人1.5回以内をめざす。 c 自転車通学生徒の交通法規遵守、マナーの向上年間事故件数、各学年1件以内をめざす。 d 自転車駐輪に関する苦情件数、前年からの減少をめざす。 e 保健HRの実施を行い、年間1回以上危険薬物についての知識を高める。 f 食堂利用生徒の満足度をアンケートにより把握し肯定値60%以上をめざす。 ウ a 安全点検を実施し、アンケートの回収率を高め速やかに改善されるよう関係部署に連絡する。保護者からの指摘件数0件をめざす。 b 学校教育自己診断「清掃がいきとどいている」の肯定値60%への向上 c クリーンキャンペーンへの参加者数260人以上。 エ 他校種や地域の方との交流回数のべ10回以上をめざす。	ア 発達障がいにより、支援が必要な生徒の支援や家庭事情により就学に問題がある生徒への対応、親子ともに心理的に不安定となった生徒の対応等にあたった。評価指標に対する肯定値は66%と昨年度より2p低下したが(△)、担当で相談できる教員の肯定値は64%と12p上昇。 イ a H30年度 生徒満足度82%で前年度並み(体育大会、文化祭)(○) b 遅刻数→1人約1.4回(○) c 自転車事故については各学年1件生起(○) d 駐輪に係る苦情は0件(○) e 全学年の生徒に対して薬物乱用防止のHRを実施し、知識が深まった(○) f メニューや環境等改善したとアンケートで評価する生徒が60%超(○) ウ a 安全点検の結果に応じ、速やかに改善した。安全に係る指摘は保護者から受けていない。(○) b 「清掃がいきとどいている」の肯定値65%(◎) c クリーンキャンペーン参加者数270人(○) エ 国際交流や子ども食堂の運営について地域の篤志家と連携。複数の部活動において支援学校や小中学校との連携に取り組んでいる。のべ回数10回以上(◎)
	(2) 学校運営体制の強化 ア 組織力の強化 イ 教員の育成 ウ 働き方改革	ア 教職員全体のチーム意識を高めるなど組織力の強化を図る。 イ 若手養成講座の開催 ウ 長時間労働削減のための業務効率化と意識改革を図る。	ア 教員アンケート「校内人事、校内連携、教職員間の意思疎通」平均60%への向上 イ アンケート「初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている」60%への向上 ウ 業務効率化・意識改善・相互支援についての研修を1学期中に1回実施。 ・「働き方」について自己申告票に記述欄を設ける。達成率90%以上。	ア 平均は55%(△)但し「分掌・学年の連携・組織的に機能している」69%(◎) イ 「初任者等、全体で育成」69%(◎)。昨年度より22P向上。OJTによる計画的育成が奏効。 ウ 管理職より時機を得た報告連絡相談の重要性について各学期1回以上講話(○)。 自己申告票への記載は実施せず(△)。
	(3) より積極的な情報提供と広報活動の展開	ア ホームページの充実を図る イ 広報活動の展開を図る ウ 中学校訪問の戦略化を図る。	ア 学校教育自己診断(保護者)「学校のホームページをよく見る」の肯定値35%維持。 イ 教員による中学校訪問数(29年度70校)を精査し近隣中学校を中心に情報、資料等を用い、より丁寧な訪問を計画し実行する。	ア 「HPをよく見る」の肯定値41%(◎) イ 当初の計画通り70校実施できた(○)